

本興寺だより

令和五年

五月

第二四五号

「我時に衆生に語る、常にここにあって滅せず、方便力を以ての故に、滅不滅有り」と現す」

(如来寿量品第十六)

新緑の野山も、その色を増してきました。冬の間、葉を落としていた落葉樹も、冬の間も葉を茂らせている常緑樹も春から夏にかけて新しい葉を付けます。

お寺の周囲のたくさん紫陽花も、若葉の艶やかな緑色が日に日に増しています。生命の勢いを感じます。

花は慎ましく奥ゆかしさを感じますが、チューリップやドウダンツツジ、紫陽花へと順に咲いてくる境内の花を見ていると、厳しい冬の雪に耐えて雅やかなきれいな花を咲かせる姿には、むしろ生きる力強さとたくましさを感じます。

花は一輪でも懸命に咲いています。他人に見られなくても孤独を感じず。また群生の中でも競い合っている自分の美を表現しています。周囲の花に気おくれすることなく。人の生き方もかくあるべき事を教えていると思えます。

誰でも一生の内、何時か自分の綺麗な花を咲かせたいと願っています。そのためには試練の暑い夏や寒い冬を体験して、その中でも力強く生きる意欲と、右往左往しない心の平静を忘れないことだと云われます。

心はコロコロと云ってよく動きます。またコロコロと云ってすぐ自分の思いを良しとして凝り固まるのです。自分の望むとおりになれば喜び、思いにそぐわないと怒ります。

またその心の気分によって、受け止め方が違ってきます。自分の心であっても感情や思いに振り回されて思うようにならないのが私達の姿です。

仏様は、「弓矢を作る人が、矢を削ってまっすぐにするように、賢い人は、その心を正しくする。心は抑え難く、整え難い。この心を整えてこそ、安らぎが得られる」と。

日蓮聖人も「心の師となるとも、心を師とせざれ」と云われています。「心の師となるとも」とは、揺れ動く自身の心を冷静に見つめて、自制できることであり、「心を師とせざれ」とは、誘惑や欲望に無意識に翻弄され、感情に任せて自分を見失うことをしてはいけないと云われます。

仏様がこの世に出られたのは、全ての人を仏の智慧に入らしめて心の眼を開かせて、この世の全ての人、物事が、互いに原因となり、縁となり、大きな繋がりの中に存在していることに気付かせるためです。それに気付く感謝の気持ちだが、「お蔭様で・」と云える影の力を頂けると云われます。

世の中には、善いものと悪いものの二つがあるわけではなく、好きなもの嫌いなもの二つがあるわけでもありません。二つに分けるのは人の心です。利害や感情の気持ちから離れて、仏様の智慧を通して見れば、

人の一生は何時でも、悩み、課題、願望などを抱えながら生きています。心が疲弊し、自信を無くしたり、孤独になることもあります。

心配や苦悩を離れ、穏やかに心豊かに暮らせる日々は案外少ないと云われます。

その原因は何か？ 仏様は、私達が生命の本質、心の在り様を実感できず、自分一人がこの世だけの単独の命であり、社会から独立した命であると思いつき、自我の見方、考え方に固執しすぎるからだと言われます。

仏様は、人の命の根底には森羅万象の命と共有する命があり、その命は、冒頭の文のように、過去、現在、未来にわたり途切れることなく、**心の本性（心性）も、生滅変化を超えて不生不滅**であると説かれています。



時空を超えて不変なるものとしての心は**仏性**といわれ、**魂**であります。その上には、**肉体（脳）**で思考する心があります。この**肉体の心こそ本当の自分である**と思いつき、**自我を強める**ところから、あらゆる**煩惱や悩み**が生まれると云われます。

自分の心の底にある、自我を超えた、大きく、深い、広い共通の心の存在に気付く時、人は生き方が変われるのだと云われます。

心の持ち方が大事だとは、皆漠然と思っています。しかしそれが人生を変え、運命を転じるほどの力があるとまでは気付かないのです。

人生で出会う事柄には、皆尊い意味と教訓が含まれていることに気付かされるのだと教えています。

現代の社会は、核家族化が大半を占め、家族が一同に会することは少なくなっています。家族があっても家庭内孤独を感じた人が増えていきます

生活の基盤であった家庭がほころびてきています。家（ハウス）はあるが、家族がかかりによって心が触れ合う家庭（ホーム）がない。楽しみはあるが喜びはないとも言われます。

家庭を家の庭と書くのは、庭の持つ意味合いが大切だからです。昔の家は小さくても庭があり、そこには庭石や草木の花がありました。**庭はゆとりの空間。**砂漠のオアシスのように。家に帰ると、ほつと一息、一日の疲れを癒し、安らぎ、庭の草木から自然の生き方を学ぶ所でした。



家族の意思の疎通を密にして、親から子へ、ご先祖から引き継がれてきた、尊い命の流れ、心の財産と、人として生きる大切な智慧を伝えていく場でもあります。

智慧を授けていただけの仏が**文殊菩薩**です。悪魔を圧する獅子の上に鎮座されています。右手に剣を持って。煩惱や我執を破り砕く智慧の剣です。

仏様の智慧を得ることが出来れば、私達は如何なる困難な時があっても、それを切り開いていく強い力と智慧が備わってくると思われています。